大髙クリニック

〒457-0031 愛知県名古屋市南区鯛取通4丁目1番地 第1田口ビル2F

大髙 一則 大髙クリニック 院長

1980年秋田大学医学部卒業．1982年名古屋大学医学部精神医学教室入局．1984年愛知県立城山病院，1992年名古屋第二赤十字病院精神心療科副部長を経て，1994年4月より現職．不登校や発達障害などの児童・青年期の患者を中心に診療している．日本児童青年精神医学会認定医・評議委員，日本青年期精神療法学会理事．

大髙クリニックは，愛知県名古屋市南区にある児童青年期精神科クリニックで，2017年で開院から23年目を迎えます．ひと月の受診患者総数は約1,200名にのぼり，院長と医療スタッフ20名（看護師2名，臨床心理士7名，精神保健福祉士3名，作業療法士1名など）で診療にあたっています．早くから児童青年期デイケアを併設し，地域の児童青年期精神医療に取り組んできた大髙一則先生にお話を伺いました．

クリニックの開院に至る経緯とこれまでの歩みを教えてください

1980年に秋田大学医学部を卒業したのち，児童精神医学のメッカである名古屋大学精神科の医局で研鑽を積み，その後は愛知県の精神科病院にて精神科医療に取り組んできました．より地域に根ざした児童青年期の精神医療に取り組むべく，当院を開設したのが94年で，翌95年には児童青年期デイケアを併設しました．1990年代半ばぐらいから子ども・青年の不登校・引きこもりが大きな社会問題として認知されるようになりましたが，当時はまだ通信制の学校やフリースクールがなく，不登校・引きこもりの子ども・青年の居場所がなかったため，当院の児童青年期デイケアは早くから居場所としての役割を果たしてきたと思います．

現在，当院の初診患者の35%が18歳以下となっており，近年は徐々に成人の割合が増えてきています．その背景として，大人の発達障害特性をもつ例が増えてきていることや，不登校の子の親御さんが相談のために来院するケースが増えていることがあげられます．また，当院受診患者の34%は初診時が10年以上前の方ですので，児童青年期から発達障害で当院にかかり，成人期には職場で不適応となった方を継続的にフォローしているケースが多いことも当院の特徴ではないかと思います．

児童青年期から成人期の患者さんを優しく迎える医療スタッフと院長

SAMPLE

Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.